



シベリア抑留から、ポーランドの歴史へ 建部 奈津子

初めまして、新会員の札幌に住んでいる建部奈津子と申します。職業は歯科衛生士です。入会のきっかけは第109回例会「カティンの森のヤニナ」で富田武先生が来札された機会に、例会に参加したことでした。



富田武先生とのご縁

富田先生とは、私が運営しているボランティア団体「シベリア抑留体験を語る会 札幌」で、昨年先生が出版された『日ソ戦争』（みすず書房）の出版記念講演会を開催したご縁です。先生の「抑留研究会」にも ZOOM で何度か参加し、私が自費出版した児童書・シベリア抑留記『黒パンと交換した腕時計』（柏艸舎）に推薦文を書いて頂きました。このような交流があり、対面でお会いできる大変貴重な機会なので迷わず例会に参加させて頂きました。

私は演題の「カティンの森のヤニナ」については、恥ずかしいですが無知でした。ポーランドと言えばショパン、ワルシャワ蜂起、アウシュヴィッツ収容所くらいしか知りませんでした。小林文乃さんの講演を聴いて、ポーランドには記念碑や慰霊碑が多いことや、その存在意義の大きさを知りました。

吉田欽哉氏の功績

弊会でシベリア抑留体験者の語り部をされている利尻島在住の吉田欽哉氏(98)は、78年前シベリアに抑留中ソ連将校の命令で、自らの手で仲間の遺体を何十体も、命令されるがままにシベリアのツンドラ地帯の永久凍土に埋葬しました。その時まだ20歳の吉田氏は「必ず迎えに来るからな」と手を合せて約束しました。戦後70年ごろから語り部として北海道中心に活動し始めました。

世界規模のコロナ禍やロシアのウクライナ侵攻で、ロシアで遺骨収集ができなくなったため、ご自宅の近く、海を隔ててシベリアに一番近い利尻に「シベリア抑留者慰霊碑」を、戦友への供養と平和の想いを込めて、全国や海外の皆様からの温かいご寄付により、令和5(2023)年8月末に完成しました。この取り組みが評価され、このたび第9回シベリア抑留記録・文化賞で功労賞を受賞されました。

私は学校の授業では残念ながらシベリア抑留もポーランドのカティンの森事件も教わった記憶があ

りません。日本史や世界史の授業を単に年表を丸暗記する科目ではなく、どうしたら自分事として受け止めることができるのか、世界各地で今この瞬間にも尊い命が奪われていて紛争や軍事侵攻を阻止しなければならない状況下、自分の意見が言える人間になれるのか、若い世代が普通に意見を言える社会になるのかと危惧しています。

シベリア抑留記～黒パンと交換した腕時計

このような課題を踏まえて、私は令和4(2022)年初めに、易しく親しみやすい、読書が苦手な人にも読んでもらえるようイラストや解説を多くした児童書・シベリア抑留記『黒パンと交換した腕時計』を自費出版し、主人公の吉田さんのいる宗谷地方の全



小学校と全国の主要図書館へ寄贈しました。子どもや外国人でも読めるように漢字全てにフリガナをふり、文字も大きくしました。目や耳の不自由な方のためのサピエ図書館で音訳・点訳が公開されています。*

私たち大人が後世へ伝えなければならない負の遺産である戦争の話は、語り部も高齢化して激減し、このまま何もしなければ風化して歴史の闇に葬り去られてしまいます。

なぜ、過去の惨劇を繰り返さないよう、20世紀の歴史を活かせないのか？ いま世界各地で起きている軍事進攻がすぐ停戦できないのか？ 国際社会は解決できず、ただ黙って不安に駆られ何もできず歯がゆい思いをしなければならないのか？ 私たちにもできることは、知識の共有、SNS による情報発信などです。聞いたことを誰かに一言でも伝えれば、時間がかかっても1ミリずつでもこの社会は変わっていくのではないのでしょうか。

今回入会させて頂いたのをきっかけに、ポーランドのことをもっと学んで、世界の中の日本として、様々な角度から視野を広げていきたいです。

(たてべ・なつこ、シベリア抑留体験を語る会札幌会長)

* 購入(1,500円+送料)ご希望の方は「本希望」と明記し moon7250918@gmail.com へお願いします